

第4回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか  
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー会議

(平成30年7月25日開催)

主な意見と指摘事項と修正について

1. 環境対策の現況報告

指摘事項	対応
・干潟表土を被覆しているシートが経過により劣化しているため、新しいシートに取り換えること。	・干潟のシートは劣化が進んでいたため、8月に新しいシートに取り換えました。
・浚渫範囲に設置している連続観測用ロガー（D0・塩分）については、春季～夏季にかけてフジツボなどの付着生物により、計測に影響をおよぼす。そのため、頻繁にロガーを引き上げ、センサー部分の清掃をおこなうこと。	・夏季はこまめに職員が計測器を引き上げてセンサ部分を掃除しました。また、データが正常に記録されていることを確認しました。
・ロガーの塩分データグラフで、上層よりも下層の方が高い期間（7/13～14）については、不自然なデータのため、再確認すること。	・再確認し、データ範囲に誤りがあったため修正いたしました。
・5月～7月までD0と塩分は付着生物により正常に記録されていないが、水温データにより水塊の挙動把握等、何かの参考になるかもしれないので整理しておくこと。	水温データについては、5月の設置時からのデータを整理いたしました。

2. H30年度定期環境モニタリング結果報告

指摘事項	対応
・0.6-0.7KpでH30.5の干潟のラインが後退しているが浚渫による影響か確認するため、計画浚渫範囲と実際の測量結果を合わせた拡大図を作成すること。	・拡大図を作成しました（資料7参照） 後退部分は当初からの浚渫範囲でした。
・鳥類調査結果について、トウネンやハマシギが春季調査で確認されていないが、全国的に減少している可能性もあるため、首都高大師橋の鳥類調査結果も参考に考察すること。	・首都高大師橋の調査結果も参考に結果に取りまとめました。また、2017年度の全国シギ・チドリ一斉カウント調査結果を基に東京湾周辺におけるトウネン・ハマシギの確認状況についてもトピックスとして掲載いたしました。
・橋梁完成後の鳥類飛翔高度への影響として、高度区分10～20m（橋梁高さ）のみ注視しているが、他の飛翔高度の出現状況についても経年変化がわかるようにまとめていくこと。	・高度区分10～20mだけではなく、他の飛翔高度についても経年変化がわかるようにまとめました。

指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥類の出現個体数のデータの年変動についても図示し、経年的な増減を把握しておきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出現個体数のデータの年変動についても図示いたしました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・底生生物調査結果について、河口域に特異的な3種（ヤマトカワゴカイ、ヤマトシジミ、ヤマトスピオ）の個体数変動を把握すること。また、底質調査結果について、底質と底生生物の関係性を今後検討すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の3種について、地点ごとの個体数変動および底質粒度との関係について図示しました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマトシジミは個体数だけではなく殻長組成の動態を把握すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマトシジミの殻長組成を経年的に取りまとめました。</li> </ul>